

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項に基づく

教育委員会の点検・評価

(平成28年度対象)

平成29年7月

富津市教育委員会

目 次

I. はじめに

- 1. 本市の点検・評価の概要…………… 1
- 2. 教育委員の活動状況…………… 2

II. 点検・評価

- 1. 学校教育の充実…………… 5
 - (1) 教育総務課の取り組み…………… 6
 - (2) 学校教育課の取り組み…………… 8
 - (3) 教育センターの取り組み…………… 11
 - 外部評価者による評価…………… 13
- 2. 生涯学習の充実、青少年健全育成の推進、文化・芸術活動の推進、
文化財の保護と活用…………… 14
 - (4) 生涯学習課の取り組み…………… 15
 - (5) 公民館等の取り組み…………… 18
 - ア. 中央公民館…………… 18
 - イ. 富津公民館・埋立記念館…………… 20
 - ウ. 市民会館・峰上地区公民館…………… 22
 - 外部評価者による評価…………… 24
- 3. スポーツ・レクリエーションの振興…………… 25
 - (6) 生涯学習課（スポーツ振興係）の取り組み…………… 26
 - 外部評価者による評価…………… 28

I. はじめに

1. 本市の点検・評価の概要

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条で、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その報告書を議会に提出するとともに公表するよう求められています。また、点検・評価にあたっては、教育に関して学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

富津市教育委員会では、これに基づき、平成 20 年度の事業から毎年、点検・評価を実施してきました。

今般、平成 28 年度の点検・評価が終了しましたので報告します。市民の皆様は、教育委員会が行っている日常の業務や課題を知っていただき、一層のご支援を賜りたいと考えています。

(2) 報告書の構成

平成27年度が目標年度であった「富津市第3次基本計画」及び「生涯学習推進計画」に代わり、今回は「富津市教育施策」の施策指標とそれに対する到達点を3分野に分けて明示しながら、取り組みの実際と自己評価、及び学識経験者2名の評価と意見を記載しました。

また、学識経験者の評価と意見は、分野ごとにまとめていただきました。

評価A：事業の効果が現れている。

B：事業の効果が概ね現れている（一部に問題がある）。

C：事業の効果があまり現れていない（多くの問題がある）。

富津市教育委員会

平成29年3月31日現在

職 名	氏 名
教 育 長	岡 根 茂
教育長職務代理者	宮 田 賢
委 員	榎 本 純 子
委 員	小 坂 洋 子
委 員	坂 部 充 洋

2. 教育委員の活動状況

(1) 定例会議等……………毎月開催、必要に応じて臨時に開催

- 4月28日 ・富津市公民館運営審議会委員の委嘱について
 - ・義務教育諸学校（市立小学校及び中学校）の教科用図書の取扱い方針を定めることについて
 - ・教科用図書君津採択地区協議会委員の選出について 等
- 5月26日 ・富津市社会教育委員の委嘱について 等
- 6月30日 ・富津市学校給食運営委員会委員の委嘱及び任命について 等
- 7月28日 ・平成29年度使用教科用図書の採択について
 - ・教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
 - ・富津市私立幼稚園就園奨励費補助金交付規則の一部を改正する規則の制定について 等
- 8月25日 ・富津市一般会計予算教育費9月補正予算案について 等
- 9月29日 ・報告事項 等
- 10月27日 ・報告事項 等
- 11月24日 ・富津市一般会計予算教育費12月補正予算案について 等
- 12月22日 ・富津市教育委員会被表彰者の決定について
 - ・富津市生涯学習バス利用規則の一部を改正する規則の制定について 等
- 1月26日 ・富津市教育委員会被表彰者（追加）の決定について 等
- 2月23日 ・富津市学校施設整備基金条例の制定について
 - ・富津市一般会計予算教育費3月補正予算案について
 - ・平成29年度富津市一般会計予算教育費当初予算案について
 - ・退職教職員に対する教育功労者の表彰について
 - ・富津市教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定について
 - ・富津市教育委員会事務局局職員の職の設置に関する規則の一部を改正する規則の制定について 等
- 3月30日 ・富津市退職教職員感謝状贈呈式
- 3月30日 ・富津市公民館運営審議会委員の委嘱について
 - ・富津市社会教育委員の委嘱について
 - ・富津市立中学校生徒の通学費の補助に関する規則を廃止する規則の制定について
 - ・富津市立中学校生徒の通学費の支給に関する規程を廃止する訓令の制定について
 - ・平成29年度富津市学校教育の指針を定めることについて

(2) 教育委員協議会……………事務局とのフリートーキング等

- 5月26日 ・教育委員会の点検・評価（平成27年度対象）について
- 6月30日 ・経営課題について
 - ・旧関豊小学校跡地利用進捗状況について

- 7月28日 ・旧関豊小学校跡地利用進捗状況について
 - ・食物アレルギー対応検討委員会の設置について
- 8月25日 ・富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略実行計画（案）について
 - ・中期収支見込みについて
 - ・富津市小・中学校再配置計画（案）に係る庁内会議設置要領の制定について
- 11月24日 ・富津市小・中学校再配置計画（案）について
 - ・平成29年度富津市教育施策（案）について
 - ・平成29年度教育費当初予算要求方針及び概要等について
 - ・事業仕分けについて 等
- 1月26日 ・富津市小・中学校再配置計画（案）説明会進捗状況について
 - ・天羽中学校校舎整備計画に係る事業比較について
 - ・天羽中学校校舎視察及び給食試食
- 2月23日 ・富津市小・中学校再配置計画（案）説明会進捗状況について
 - ・富津市学校給食における食物アレルギー対応マニュアルについて 等
- 3月30日 ・富津市遠距離通学費補助金交付要綱の制定について 等

(3) 総合教育会議……首長、教育委員会により構成され、大綱の策定、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策等協議・調整を行う。

- 12月22日 ・富津市教育施策に係る大綱について

富津市教育施策に係る大綱

平成28年12月22日
富津市長 高橋 恭市

富津市及び富津市教育委員会は、「豊かな心を育む教育と文化の香るまち」を目指し、それぞれの施策を推進します。

(4) 教育長及び教育委員の研修等

- 5月16日 君津地方教育委員会連絡協議会総会
- 6月1日 千葉県市町村教育委員会連絡協議会定期総会並びに特別講演会
 - 講演 「千葉県内市町村教育委員会の現状について」
- 10月24日 千葉県市町村教育委員会連絡協議会第1回教育長・教育委員研修会
 - ① 全体会（パネルディスカッション）
 - テーマ 「新しい教育委員会の取組における現状と課題について～教育委員会の果たす役割を考える～」
 - 千葉県市町村教育委員会連絡協議会代表として岡根教育長がパネラーとして参加し、新教育委員会制度で教育委員会議が実施されている等発表しました。

- ② 分科会
- ・「開かれた学校づくりについて」
 - ・「学力・学習状況調査を活用した学力向上について」
 - ・「新教育委員会制度における首長との連携について」

1月24日 千葉県市町村教育委員会連絡協議会第2回教育長・教育委員研修会

講演 「若者とかかわって思うこと」

(5) 学校訪問

10月12日 天羽中学校

9月16日 湊小学校

経営概要説明・授業参観 等

(6) その他

入学式・卒業式、小・中学校音楽のつどい、成人式、並びに関係団体・機関の会議等に多数参加した。

Ⅱ. 点検・評価

1. 学校教育の充実

『富津市教育施策』の施策目標と到達点

指 標 名	平成27年度	平成32年度 (目標値)	平成28年度 (到達点)
きめ細かな指導のために配置された指導員数	特別支援教育指導員 5人	8人	6人
	外国人指導助手 (ALT)		
	3人	3人	3人
	自立支援指導員 4人	4人	4人
	学校適応指導相談員 2人	2人	2人
	英語指導員 3人	6人	3人
	指導補助教員 5人	7人	5人
読書指導員 0人	3人	0人	

(1) 教育総務課の取り組み	教育委員会の自己評価	B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none">・学校施設整備基金積立金 (31,795,252 円)・学校施設整備事業 (53,904,341 円) 工事請負費 (41,795,460 円)・学校教育振興費 (17,364,128 円) 理科教育振興備品 (1,396,760 円) 教材備品 (5,773,028 円) 図書備品 (2,938,595 円) 等		
<p>② 28年度の取り組みの概要と効果 (成果・課題等)</p> <p>・昨年度、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が施行され、4月に新教育長が就任し新教育委員会制度が発足した。10月には新市長が就任し総合教育会議を開催、首長と教育委員会の連携・協力がより密に行われ、富津市教育施策に係る大綱を定めた。</p> <p>・学校施設の整備は、環小学校給水ポンプ交換工事、金谷小学校高架水槽給水管修繕及び大貫中学校普通教室棟・管理棟屋根防水改修工事等を実施した。また、賃貸借契約更新に伴い、所有者より買取りの申し出があり天羽東中学校用地を購入した。今後の課題として、校舎等耐震補強工事は終了しているが、施設の老朽化に伴い安全面、機能面での適時適切な対応が必要となっていくため、計画的な施設整備が急務である。</p> <p>・旧関豊小学校跡地利用について、学校敷地内の借地2筆を購入した。また、計3回の庁内検討会議で売却等の財産処分について検討し、公募として選定委員会を設置し (社) あたご会へ売却した。なお、有償譲渡に伴い、文部科学省の公立学校施設整備費補助金等に係る財産処分の国庫納付額は学校施設整備基金に積立て、経済産業省の電源立地地域対策交付金は返還した。</p>		
<p>③ 今後の取り組みの方向性 (改善策等)</p> <p>学校施設については、富津市教育施策にあるように安全・安心な教育環境づくりに努める。そのため、学校再配置構想に基づく再配置計画 (案) との整合を図りながら、学校施設整備基本計画を策定し、大規模改修、非構造部材の耐震化等老朽化施設解消に向けての整備を図る。また、統合後の跡地利用については借地及び未登記用地が存置しており、長期的な収支見込で購入等検討していく必要がある。今後、市役所内部の庁内検討委員会等で跡地利用を検討し民間への賃貸又は譲渡により、企業誘致等を推進する。</p>		

◎教育部全体での取り組み（教育かわら版の発行）

教育委員会が日頃行っている業務等について、市民に理解して頂くために教育かわら版を20年度から発行しており、今年度で通刊38号を迎え、計4号を区長回覧にて全戸配布し、併せて富津市ホームページに掲載した。7月発行の35号は、新教育長及び教育委員の紹介、児童の交通安全指導、スポーツ競技団体及び移動図書館等のおススメ本の紹介等、10月発行の36号は、見守り隊の保護者・地域の皆さんの登下校時のパトロール、指定された学校以外への就学申請、各種スポーツイベント案内等、12月発行の37号は、冬におすすめの絵本の紹介、元旦のイベント紹介、食と子育て～その9等、2月発行の38号は、食と子育て～その10、就学援助制度・育英資金制度の紹介等、多種多様な内容の紹介に努めている。

財政収支改善策による経常経費削減のための検討は必要だが、今後も引き続き内容の充実に努め、発行は続けていきたい。



35号 (H28年7月発行)



36号 (H28年10月発行)



37号 (H28年12月発行)



38号 (H29年2月発行)

(2) 学校教育課の取り組み	教育委員会の自己評価	B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園就園奨励事業 (41,711,800 円) ・要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業 (17,390,866 円) ・特別支援教育児童・生徒就学援助事業 (1,930,723 円) ・特別支援教育指導員 (9,447,230 円) ・学校給食管理運営事業 (126,593,093 円) ※ ・給食施設整備事業 (3,510,000 円) ※ ・給食材料費 (169,920,473 円) ※ 等 <p style="text-align: center;">※ (旧 教育総務課)</p>		
<p>② 28年度の取り組みの概要と効果 (成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園就園奨励事業 <ul style="list-style-type: none"> 市内に住所を有する補助金該当保護者の子 304 人(前年度比-8 人)が通う、市内外の私立幼稚園 8 園の設置者に補助金を交付し、幼児教育の振興を図った。 平成 28 年度から補助額を国の限度額と同額 (前年度までは、8 割) とし保護者の経済的負担の軽減を図った。 ・要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業 <ul style="list-style-type: none"> 準要保護児童・生徒として 198 人(前年度比+13 人)を認定し、学用品費・給食費・児童への通学費補助・医療費等の援助を行った。 これまで国の基準額の半額であった学用品費、通学用品費、校外活動費、新入学用品費等を同額とし保護者の経済的負担の軽減を図った。 さらに、広報ふつつや教育かわら版等で広く周知を図るとともに、申請書についても市 HP からダウンロードできるようにした。 ・特別支援教育児童・生徒就学援助事業 <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級在籍の児童・生徒 47 人(前年度比+7 人)を認定し学用品費・給食費等の援助を行った。 ・特別支援教育指導員 <ul style="list-style-type: none"> 通常学級で過ごす特別支援を必要とする児童・生徒の支援のため、6 人(前年度比+1 人)の指導員を非常勤で雇用し延べ 6 校に派遣した。配置の効果は非常に大きく、学校からも増員に向けた切実な要望が寄せられている。 ・その他 <ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の健全な育成と各種事故防止を図るため、学校と警察並びに教育委員会が学校警察連絡委員会を組織している。28 年度も連携を密にし、互いに協力して指導の万全を期した。また、27 年度より通学路の安全確保に向けた取り組みを関係機関 (富津警察、国・県道路関係者及び市役所関係部署、PTA 代表、等) が連携して推進し、通学時における児童生徒の交通事故防止を図るため、「富津市通学路安全対策協議会」を立ち上げた。各学校から報告のあった通学路の危険箇所を、関係機関で合同点検を行い、危険箇所の改善等が行 		

われた。

- ・学校給食管理運営事業

共同調理場 2 箇所（大貫、天羽）及び単独校調理場（青堀小学校）の調理等業務委託及び受配校への配送等業務を民間会社に委託し実施した。

- ・給食施設整備事業

天羽共同調理場の老朽化更新のため、単独浄化槽から合併浄化槽へ埋け替え工事を実施した。

- ・給食材料費

2 共同調理場及び 1 単独校調理場で年間 194 日以上給食を実施して、児童・生徒の心身の健全な発達と学校における食育の推進を図った。

また、給食で提供する主な食材の放射性物質検査を行い、検査した延べ 66 品目全てで放射線は「不検出」だった。

- ・小・中学校再配置構想の推進

児童・生徒の減少等を考え、小学校では「複式学級の解消」、中学校では「学年 1 学級の解消」を目安に、平成 32 年度を目処として、天羽地区 4 小学校（湊小学校・天神山小・竹岡小・金谷小）の再配置、天羽中学校と天羽東中学校の再配置、大貫中学校と佐貫中学校の再配置計画（案）を策定した。そのために、保護者説明会・地区説明会を全 31 回、延べ 727 名の保護者・地域の方々の意見を伺い、再配置計画（案）の説明に努めた。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

- ・私立幼稚園就園奨励、要保護及び準要保護児童・生徒就学援助、特別支援教育児童・生徒就学援助事業

3 事業とも市の財政負担が高まる傾向にあり、幼児教育・学校教育の振興のため、予算の確保が求められているところであるが、平成 29 年度より私立幼稚園就園奨励補助対象の園児に兄又は姉が 2 人以上いる世帯の多子計算に係る年齢制限を撤廃し保護者の経済的負担の軽減を図る。今後も予算の確保に努めていきたい。

- ・特別支援教育指導員

今後も各学校のニーズに応じた増員に向け、予算の確保に努め、さらなる充実を図っていきたい。

- ・私立幼稚園振興事業

対象経費の 2/3 以内の額を補助額とする制限を平成 29 年度より撤廃し予算の範囲内の額とした。今後も幼児教育環境を整備するとともに教育内容の充実を図っていきたい。

- ・学校バス運営事業

スクールバスは、現在 3 台で運営しているが老朽化が激しいため、国庫補助金（補助率 1/2）を活用して 1 台のスクールバスを更新する。

- ・学校給食管理運営事業

富津市学校給食施設整備の指針に基づき、本市においてより望ましい学校給食調理場のあり方を実現するため、第 2 期計画の方針を決定する。

また、安定的な給食の実施を確保するため、老朽化や耐用年数の経過した施設設備の計

画的な更新に努める。

- ・給食施設整備事業

天羽共同調理場の地盤面下に設置された地下タンクの腐食による危険物漏えい防止のため、鋼製地下タンク改修工事を実施する。

- ・給食材料費

安全・安心で安定した給食の実施に向け、調理従事者研修の充実、食材の安全確保に努める。また、給食に使用する食材の地産地消を推進し、各調理場での取り組みを公表する。

給食費未納者に対しては、今後も例規に基づいた対応を実施する。

- ・小・中学校再配置構想の推進

富津市小・中学校再配置計画（案）に対する保護者・住民の理解促進を図っていく。天羽地区中学校と大佐和地区中学校、天羽地区小学校の統合について、庁内関係部局と協力を図りながら進めていきたい。

<p>(3) 教育センターの取り組み (旧 学校教育課)</p>	<p>教育委員会の自己評価 B</p>
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修推進事業 (98,821 円) ・学力向上推進事業 (9,454,119 円) ・外国語指導助手配置事業 (11,340,000 円) 等 	
<p>② 28年度の取り組みの概要と効果(成果・課題等)</p> <p>教職員研修推進事業では、夏季教職員研修会を10講座、PC研修会を2講座開催。今年度も、自身の課題に基づく希望参加を継続した。教職員一人平均1回以上参加の意識も高まり、延べ365人の自主的な参加があった。市教職員全体研修会は、道徳の教科化に向けて「特別の教科・道徳」と題して講演をいただく予定でしたが、台風の影響で中止となった。いただいた資料を全小・中学校の教職員に配付し今後の道徳教育の方向性を知る機会とした。</p> <p>階層別研修としては、新規採用教職員研修、指導補助教員等研修、2年目教員研修、生徒指導担当者研修、特別支援教育コーディネーター研修、管理運営研修(教頭・教務主任対象)等を実施した。また、若年層の育成と中堅層教員の資質向上を図るために中堅層研修を実施し、千葉県総合教育センターの職員を講師に課題解決型の研修を行った。指導補助教員等の研修には、今年度も多くの講師が参加し、指導法を身につけると共に、正規採用を目指す上でのスキルアップにも心がけた。2年目研修では、授業づくり研修として、指導案検討から指導主事が参加し、授業実践を通して授業力のアップを図った。各研修における、専門的な立場からの示唆や実践例の紹介等が、教職員の力量向上に役立っている。また、指導主事・教科指導員・食育指導員等が学校からの要請を受け、延べ79回(昨年度95回)、指導案作成への助言や校内授業研修会等の講師としての役割を担った。</p> <p>学力向上推進事業では、少人数指導の推進のため、指導補助教員5人を、小学校2校、中学校3校に配置し、授業中の個別指導や適応指導教室での学習支援を行った。個に応じた指導への各学校からのニーズは高く、今後の増員を目指したい。また、学力向上推進委員会を組織し、本市の学力の課題を分析した。その分析結果から「書いて、考える」学習に重点を置いて児童生徒の取り組みの意識の変化を見ることとした。また、市の教科指導員に授業を公開してもらい、教職員の授業改善の一助とした。</p> <p>外国語指導助手配置事業では、今年度も3人のALTを雇用し、全小・中学校において活用できるように配置した。派遣の雇用形態も定着し、各校での打合せや担任との連携が充実した。更に小学校の外国語活動には3人の英語指導員の雇用を継続し、ALTとともに学級担任の指導を補助した。</p> <p>生徒指導・教育相談体制として、自立支援指導員4人を小・中7校に、適応指導相談員2人を適応指導教室に配置した。県から派遣されたスクールカウンセラーは、中学校5校小学校2校に配置し、延べ1,800件(昨年度1,283件・517件の増)の相談活動を行った。</p>	

長期欠席者が増化傾向にあるので、原因に応じた対応に更に力を入れて取り組んでいきたい。心療内科の専門医による相談は、5件（昨年度6件）、教育センターへの電話及び来所による相談は43件（昨年度17件）であった。

小学校版の「家庭学習の手引き」を増刷し、全小学校に継続して配付した。

情報教育推進のため、文書作成や表計算ソフトの活用研修を行った。また、情報モラルとして、SNS関連の研修も行い、児童生徒が活用する上での問題点についての理解を図った。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

教職員研修推進については、今後とも教育現場のニーズや今日的な課題に応じた研修の実施に努める。中堅層の研修については、より充実させ、教師力の向上や若手職員育成において各学校で力が発揮できるようにする。

学力向上推進事業では、各種学力調査の結果を丁寧に分析し、学力向上推進委員会において、課題への対応を継続する。また総合戦略にあるきめ細かな教育の充実や地域の良さの実感に向け、保護者、児童・生徒へのアンケートを実施し、家庭（地域）・学校・教育委員会のより一層の連携を図り、目標達成を目指す。

外国語教育については、平成32年度の小学校外国語活動の教科化を見据え、教職員研修の充実や完全実施に向けての準備を行う。

情報教育の推進としては、平成29年10月、小学校の教育用コンピュータの更新に向け、必要な情報を収集し、より活用しやすい機器の導入を行う。

今後も、教育センター職員がきめ細かな学校訪問に心がけ、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、特別支援教育、生徒指導、教育相談といった側面からも引き続き支援をしていく。



外部評価者（Ⅰ）の評価 B

意見

全般的には、新教育長体制のもと教育行政に関する基本的方針に沿い、広範かつ専門的な具体の教育的行政事務が執行されていると推察します。自己評価では、達成度という見方からB評価となっていますが、厳しい財政の中、課の縮小や職員の確保が困難な状況で苦慮しながら事務の執行がされていると思います。

市長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、課題及び目指す姿を共有し連携して教育行政を推進できるものと確信しています。また、富津市教育施策「豊かな心を育む教育と文化の香るまち」をスローガンに、それぞれの施策指標の目標達成できるよう期待しています。

学校施設の整備については、児童生徒の安心・安全な環境づくりのため急務であると考えます。小・中学校再配置計画（案）との整合性は勿論であり、予算も伴うところではありますが、計画的な施設整備を望みます。

旧関豊小学校跡地利用については、市全体の取り組みとして庁内検討委員会で十分検討され、借地、文部科学省の補助金、電源立地地域対策交付金等多くの問題を解決し売却されたことは評価されます。小・中学校再配置計画（案）により小中学校の統合が進むと思いますが、跡地利用についても庁内検討委員会等でしっかりとした検討が必要と考えます。

平成 32 年度を目途として小・中学校再配置計画（案）が策定され、保護者及び地区説明会ではさまざまな意見や学校に対する思いがあり、難しい問題が多々あると思いますが、児童生徒の教育条件の改善を一番に考え計画を推進されるよう切にお願いします。

私立幼稚園就園奨励補助対象の園児に兄又は姉が2人以上いる世帯の多子計算に係る年齢制限の撤廃、私立幼稚園振興事業の対象経費の2/3以内の補助額の制限を撤廃し予算の範囲とし、保護者の経済的負担の軽減をしたことは、幼児教育環境の充実が一步前進したと考えます。

学校給食では、児童生徒に安全で安心な美味しい給食を安定的に提供し、できる限り地産地消を推進することで、地域に愛着を持つ子どもを育てることに繋がると思います。

外部評価者（Ⅱ）の評価 B

意見

学校教育に関して、今後予定されている外国語、道徳などの教科化、情報教育の更なる推進、アクティブラーニングにみられる教育活動の資質的变化などますます多様化、高度化が要求されている。そのことが更に教職員の長時間勤務や多忙化に拍車をかけることがないように、それらの研修を増すだけでなくカリキュラムの精選、焦点化、学校経営・運営の効率化などの、教育委員会から各学校への積極的指導・助言が望まれます。

経費削減の中で「教育かわら版」発行に紙面内容に苦心していることに敬意を表します。インターネットの時代とはいえ、まだまだ、身近な情報手段として紙媒体を活用している人は多い。是非とも継続していただきたい。

2. 生涯学習の充実、青少年健全育成の推進、文化・芸術活動の推進、文化財の保護と活用

『富津市教育施策』の施策目標と到達点

指 標 名	平成27年度	平成32年度 (目標値)	平成28年度 (到達点)
人材バンク「まちの先生」の利用件数	45件	90件	86件
図書利用冊数	25,260冊	26,000冊	25,298冊
青少年相談員連絡協議会事業の参加者数	943人	1,000人	947人
子ども会育成連絡協議会事業の参加者数	263人	300人	282人
家庭教育学級の参加者数	609人	800人	664人
指定・登録文化財の件数	85件	87件	85件
史跡見学会・講演会参加者数	754人	850人	755人
市民文化祭参観者数	17,469人	18,000人	18,114人
公民館・市民会館利用者数	100,049人	110,000人	110,432人
埋立記念館入館者数	1,445人	2,000人	1,479人

(4) 生涯学習課の取り組み	教育委員会の自己評価	B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員関係費 (579,920 円) ・生涯学習推進事業 (76,680 円) ・生涯学習バス設置事業 (20,727,955 円) ・図書館費 (含：移動図書館事業) (4,220,173 円) ・子ども会活動事業 (294,000 円) ・青少年相談員活動事業 (816,555 円) ・家庭教育支援事業 (120,840 円) ・市内遺跡発掘調査事業 (2,149,707 円) ・民間開発発掘調査事業 (3,622,008 円) ・公共工事発掘調査事業 (1,448,153 円) ・史跡案内板・説明板設置事業 (72,900 円) ・史跡購入事業 (24,337,265 円) ・高宕山のサル被害防止事業 (2,460,000 円) 等 		
<p>② 28年度の取り組みの概要と効果 (成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進事業 生涯学習推進大会が26年度を最後に休止となり、事業としては生涯学習情報提供誌の発行のみとなった。まちの先生や出前講座などの学習支援の活用を引き続き促しながら、生涯学習推進体制の見直しを図りたい。 ・生涯学習バス設置事業 富津市事業仕分けを受け、2台の生涯学習バスを1台にするため運行形態や利用方法の検討をした上で、老朽化した2台を順次処分し、1台の車両を更新した。 ・図書館費・移動図書館事業 年間利用冊数は21年度(34,359冊)をピークに減少傾向にあったが、はじめて微増に転じた(前年度比+38冊)。一方増加傾向にあった図書のリクエスト(618冊)や予約(304冊)の受付件数は減少した。今後とも蔵書を増やしながら、工夫を重ねたい。 ・子ども会活動事業 各種の子ども会行事をはじめ、ジュニアリーダー研修会・育成者講習会が実施され、子ども会活動及び組織の充実が図られた。 ・青少年相談員活動事業 青少年のつどい大会、文化祭の協力(なんでもヤリーナ20分・模擬店)、新年子ども大会、キャンプ大会等が実施され、青少年健全育成活動が推進された。 ・青少年問題協議会事業 青少年の健全育成に資するため、行政・学校及び各種市民団体代表により警察や学校で把握している事例を中心に協議及び情報交換を行った。 		

・家庭教育支援事業

5小学校・1中学校において家庭教育学級を開催し、参加者は延べ664人であった。

・市内遺跡発掘調査事業

青木亀塚古墳・亀塚遺跡、富士見台遺跡11、富士見台遺跡12の計3か所の発掘調査を実施するとともに、平成27・28年度に調査した計6遺跡の整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行した。

・民間開発発掘調査事業

医療法人社団三友会 三枝病院の施設建設に先立ち、青木亀塚古墳・亀塚遺跡の本調査を実施し、発掘調査報告書を刊行した。

・公共工事発掘調査事業

市道山王下飯野線の道路改良事業に先立ち、下谷遺跡の確認調査を実施した。遺構の検出によって必要となった本調査は、市建設経済部と民間発掘調査会社との契約によって実施された。

・史跡購入事業

国史跡内裏塚古墳の後円部東側周溝内に所在する土地（1筆227㎡）や建物等について、買上げ等を実施し、公有地化を図った。

・その他文化財関係事業

文化財周知板設置事業では内藤家長の墓（旧勝隆寺）、浄信寺の石灯籠（浄信寺）への老朽化に伴う付け替えを行った。

高宕山サル被害防止事業では、老朽化した電気柵の改修、発信器の装着、事業対象である高宕山周辺、特に指定地域及び要現状変更地域内に生息するニホンザル個体群を対象に行動域の調査、指定地域の生息環境調査を行った。

内裏塚古墳群など市内の史跡見学会や出前講座・講演会などへの参加者は755人（前年度比+1人）であった。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

生涯学習推進事業については、情報提供誌の発行や「まちの先生」事業を中心として継続し推進する。

図書の管理については今後、本格的な図書貸出システムの導入を検討し、利用者が家庭からもリクエストや蔵書検索ができるようなサービスを目指す。図書室の環境整備に努め、快適な読書のための空間づくりに取り組む。

家庭教育支援事業としては、これまで家庭教育学級開設校への講師報償費の補助を行ってきた。しかし、実施校が例年6校、全体の1/3程度にとどまり、所期の目的は達成した等の理由で平成28年度をもって廃止となる。今後は、「子育ての話何でも聴きます窓口」対応に伴い本庁勤務となる家庭教育指導員の活動の中で検討していく。

各種開発から埋蔵文化財を守り、場合によっては発掘調査による記録保存の策を講じるなど保存に努める。

市内の文化財周知板の整備を進め、老朽化に伴う更新のほか、指定物件以外でも重要性の高いものについては、民間からの協力も得て説明板の設置に努める。

史跡等公有地化整備事業として、引き続き内裏塚古墳単体の公有地化を進めるとともに、内裏塚古墳群全体としての整備構想を検討する。

その他文化財関係事業として、市の歴史や文化財に関して市のホームページの充実を図るなど広報活動に努める。また、高宕山のサル被害防止事業では、発信機の装着個体を増やし、指定地周辺の群数や頭数を明らかにし、管理計画の策定に向けて君津市と共同で検討していくとともに、外来種であるアカゲザルとの交雑問題についても取り組んでいく。

<p>(5) 公民館等の取り組み ア 中央公民館</p>	<p>教育委員会の自己評価 B</p>
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館管理運営事業 (16,632,752円) ・中央公民館学級・講座関係活動事業 (663,463円) ・市民文化祭事業 (749,643円) 等 	
<p>② 28年度の取り組みの概要と効果 (成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民文化祭事業 <p>富津市民文化祭実行委員会の企画・運営により市民自ら積極的に運営し実施した。生涯学習活動の成果を発表し、親睦と融和を図り、豊かな文化の向上と創造の心を養う文化祭となるよう努めた。</p> <p>11月3日から11月6日まで総合社会体育館・富津公民館・中央公民館・市民会館の4会場で実施し、1,938人(前年度比-166人)の出展者で2,876点(前年度比-238点)の作品、出演者1,722人(前年度比+236人)、参観者延人数は、18,114人(前年度比+645人)であった。文化祭は、日頃の活動成果の発表や披露、さまざまな芸術作品の鑑賞などができる貴重な場となっているものの、生涯学習を活動する主たる年代の高齢化が進んでおり、参加者が限られてくる傾向にある。</p> ・学級・講座事業 <p>対象別(青少年・婦人・成人・高齢者等)や課題別(歴史文化・工芸・健康等)の14の(前年度比±0)の学級・講座を開設した。本年度は、「読み聞かせボランティア入門講座」を市民会館講座へ異動し、新規講座として「富津フォトハイスクール」を実施した。市民に幅広く学ぶ機会を提供することにより、人づくりや地域づくりを推進した。</p> <p>学級・講座全体の開催回数は、131回(前年度比-4回)、参加延人数は1,777人(前年度比-93人)であった。</p> ・施設整備 <p>事務室前照明機器交換及び1階憩い室の畳張替交換等の修繕を実施し、施設の管理運営に支障をきたすことのないように努めた。</p> 	
<p>③ 今後の取り組みの方向性 (改善策等)</p> <p>市民文化祭事業は、事業実施後に実行委員会が反省会を行っている。この内容を次年度に生かし、より充実した市民文化祭となるよう取り組んでいく。</p> <p>学級・講座事業は、市民の生活課題や地域社会の共通課題を把握するとともに、多様化している市民のニーズに対応した学級・講座を開設し、学校や地域の各種団体等と連携するなど、誰もが参加しやすい環境づくりを図る。</p> <p>中央公民館は、築後43年が経過し、老朽化に伴い改修の必要な箇所が増加してきている状況である。財政状況を踏まえつつ計画的な施設整備に努めたい。</p>	

学級・講座開催状況

平成29年3月31日現在

No.	講座の名称	開催回数	参加延人員	講座の主旨と内容
1	シルバー生きがい学級	9	109	高齢者がいきいきと生活できるように、健康についての講義、軽スポーツ・レクリエーションや実習、社会見学等を交えながら学習していく。
2	さわやか女性セミナー	9	247	暮らしに役立つ課題や社会情勢などについて、見学、講義、実践を行いながら学習する。
3	折り紙教室	9	100	伝承折り紙から創作折り紙まで、アートとしても楽しめる折り紙の作品づくりを学ぶ。
4	はつらつウォーキング教室	9	133	ウォーキングのコツ、注意点及び効果などを学び、正しく美しく快適に歩くことにより、心身の健康増進をはかる。
5	富津フォトハイスクール	6	51	一眼レフカメラで実際に風景などを撮りながら撮影技術を学びます。(初心者の方にも丁寧に指導します)
6	外国人のための日本語講座	24	167	在日外国人が日本で生活するうえで言葉の壁を少しでも減らし、地域のひととのコミュニケーションがとれるようにする。
7	こどもチャレンジ教室	4	71	創作や体験を通じて自発性、活動性、創造性を育てる。
8	いきいき健康体操教室	9	131	自分の体の状態と弱点を知り、身の周りにある用具を使って、弱点を克服する体操を学んだり、グラウンドゴルフ・レクゲームを行ったりして心身の健康増進を図る。
9	こども折り紙教室	4	87	親から子へ、子から孫へと受け継がれてきた日本の伝統工芸折り紙を楽しむ。
10	男の悠遊教室	10	90	男性を対象に日常的に習慣化出来る体操の習得、料理・園芸などの体験、健康等をテーマにした講演を取り入れ、心身の健康増進を図る。
11	プリザーブドフラワー教室	9	167	生花に特殊加工を施し、生花の風合い、みずみずしさ、ソフトな感触を長時間保つ事が出来る花であるプリザーブドフラワーは人気が高まっており、初心者の方でも気軽に楽しみながらさまざまなアレンジメントを学ぶ。
12	キッズダンス教室	10	191	リズムに乗って体を動かし、ダンスの基礎、表現する楽しさを学ぶ。また、ダンスを通じての仲間作りと異年齢の交流を図る。
13	七宝焼教室	10	156	七宝焼の装飾品づくりを学び、自分だけのアクセサリ作品を創る楽しさと出来上がりの達成感を感じてもらう。
14	キルト教室	9	77	生活の中で不要となった布を「より華やかに、品良く、用・即・美」をコンセプトに創作して、リサイクルの推進を図る。
	合計	131	1,777	

イ 富津公民館・埋立記念館	教育委員会の自己評価 B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富津公民館管理運営事業 (19,644,306円) ・ 成人式事業 (623,128円) ・ 富津公民館学級・講座関係活動事業 (532,357円) ・ 埋立記念館管理運営費 (3,421,669円) 等 	
<p>② 28年度の取り組みの概要と効果(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成人式事業 <p>新成人を祝って、平成29年1月8日に開催し、新成人の意見発表等を行った。中学3年生時に本人が書いた「二十歳への手紙」を式典の中で披露し、後日、当日の集合写真と共に郵送した。式典不参加者にも手紙を郵送した。</p> <p>今年の新成人該当者は483人で、内351人が式典に出席し、出席率は72.67%であった。</p> ・ 学級・講座事業 <p>対象別(婦人・成人・高齢者等)や、課題別(教養・歴史文化・工芸・園芸・健康等)の14学級・講座(前年度比+3)を開設した。今年度は、新たに「折り紙・ウォーキング・英会話教室」を行い、全開催回数は137回(前年度比+43)、学級・講座全体の参加延べ人数は2,131人(前年度比+366人)であった。</p> ・ 施設整備 <p>富津公民館では、消防設備の煙感知器交換と誘導灯及び非常用照明の修繕を行い、冷暖房設備の吸収式冷温水発生機交換工事設計業務を委託した。また、埋立記念館では、浄化槽ブロワー及びポンプ交換等の修繕を実施し管理運営に支障をきたすことのないように努めた。</p> 	
<p>③ 今後の取り組みの方向性(改善策等)</p> <p>平成29年富津市成人式では、新たな記念行事として「思い出スライドショー・全員合唱」を実施し、内容に新成人代表の意見を取り入れた。記念品郵送時に参加者に対し行ったアンケートで新成人の意向を調査した結果を、今後の成人式に反映し実行委員会形式での実施を検討していく。</p> <p>富津公民館は、築後33年が経過し、老朽化による設備故障等の発生頻度が年々高まる傾向にあるが、館の運営や事業に支障をきたすことのないよう、冷暖房設備の吸収式冷温水発生機交換工事を実施する。</p> <p>埋立記念館は、平成27年度から、入館料の無料化と平日の無人化を実施することとなったが、今後も入館者数の増加に向け、広報等に努める。</p> <p>学級・講座事業については、今後も事業内容や学習手法等を十分検討し、利用者や各種団体等と連携して、誰もがより参加しやすい環境づくりを進め、市民の学習意欲の向上と地域文化の発展に努める。</p>	

学級・講座開催状況

平成29年3月31日現在

	講座の名称	開催回数	参加延人員	講座の主旨と内容
1	高齢者教室	8	289	年齢を重ねても健康で充実した生活を送るため、幅広い知識や教養、健康増進法などについて学ぶ。
2	園芸教室	10	224	花や樹木の手入れ、管理方法から、草花の種からの育て方、鉢の寄せ植え、樹木の移植、用土作り、害虫の駆除などの園芸技術を学習する。
3	男の料理教室	8	171	手軽に作れる日常の惣菜など、初歩的な調理技術と酒の肴など、男性ならではの実践的な料理づくりを学ぶ。
4	東京湾学講座	12	450	富津岬を中心に東京湾岸の歴史や文化、自然などについて、幅広い知識を学び、また、探査会を実施し学習していく。
5	健康スクール教室	8	137	自分でできる運動を中心に、日常的に体を動かす楽しさを学ぶ。
6	わらべ歌遊びと共育ち教室	8	164	子育ての中に、わらべ歌遊びを豊かに取り入れ、親子のふれあいを深める。
7	韓国語教室	16	124	日本の隣国である韓国の言語と日常会話を学び、韓国の伝統文化についても、併せて学習する。
8	大人チャレンジ教室	1	26	日常生活の中では、なかなか体験できない伝統文化・技術などにチャレンジする。
9	エコパッチワーク教室	9	113	エコ、リメイクの意識を高めるため、古着の布と新しい布を組み合わせて使用し、パッチワークを学ぶ。
10	陶芸教室	9	100	お皿や小鉢など、世界にひとつだけの「わたしの器」作りを楽しむ。
11	古文書を読む会	12	125	市内に伝わる古文書から、歴史について学ぶ。
12	ウォーキング教室	4	44	負担のないウォーキングの方法を学び、肥満や運動不足からくる生活習慣病の予防、ストレスの解消を図る。
13	折り紙教室	8	60	指先を使うことにより脳の活性化を図るとともに、多様な紙を用いて、季節の飾りや折り紙の作品を行う。
14	FIRA 英会話サークル	24	104	国際交流の表現手段としての英会話を「NHKラジオ英会話」を教材として学ぶ。(国際交流協会主催)
	合計	137	2,131	

ウ 市民会館・峰上地区公民館	教育委員会の自己評価 B
<p>④ 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民会館管理運営事業（29,141,810円） ・市民会館学級・講座関係活動事業（517,195円） ・峰上地区公民館管理運営事業（1,161,584円） 等 	
<p>⑤ 28年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級・講座事業 <ul style="list-style-type: none"> 対象別（青少年・成人・高齢者等）や課題別（教養・歴史文化・茶道・手芸・健康教室等）に20の主催学級・講座（前年度比+1）を開設し、市民に幅広く学ぶ機会を提供し、講座を通じての人づくりや地域づくりに寄与した。 開催回数123回（前年125回）、参加延べ人数2,114人（前年度2,019人）。 平成27年8月に開催した名画座を定期開催とし12月から毎月開催した。また、同時にお話会を開催したところ、読み聞かせに関心のある大人が参加し、これまで市民会館にはなかった読み聞かせサークルの誕生へとつながった。 ・施設整備 <ul style="list-style-type: none"> 市民会館では、空調設備・舞台照明設備の修繕や電話交換機等更新を実施した。また、峰上地区公民館では、屋根や雨戸等の修繕を行い管理運営に支障をきたすことのないように努めた。 	
<p>⑥ 今後の取り組みの方向性（改善策等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 主催事業である学級・講座が、常にフレッシュな内容であるよう努め、近隣の小学校・中学校・高等学校や地域との交流を深める等、新しい年代層や利用者の増加に努める。 また、自立が見込める教室・講座は、サークルとして活動を広げていけるよう促すとともに、地域の人材を活用した新たな教室・講座の開設に努め、人づくりや地域作りの拠点として事業を展開していきたい。 学級・講座以外の名画座やお話会を年間を通して定期的で開催し、これまで市民会館に足を運んでいなかった市民にも興味・感心を持ってもらえるとともに参加してもらえるような取り組みを進めていきたい。 市民会館は、築後28年が経過し、老朽化が進んでいる。市民が快適かつ安全、安心、便利に利用できるよう、財政状況を踏まえつつ、計画的な施設整備に努めたい。 峰上地区公民館については、築後53年経過している上、木造であるため施設整備等に対する保守点検を徹底し、安全性の確保及び管理運営に支障をきたすことのないよう努めたい。 旧市民会館第二庁舎は、平成29年度に解体設計業務を委託する。跡地利用については市民会館の駐車場が不足しているため、駐車場としての利用について検討する。 	

学級・講座開催状況

平成29年3月31日現在

No.	講座の名称	開催回数	参加延人員	講座の主旨と内容
1	歴史探訪講座	11	244	地域の歴史を文化・自然・人物・史跡などから再発見、学習する。
2	Futtsu One World Club (新規)	9	121	国際化する社会の中で、料理や伝統文化を通して外国の文化について学ぶ。
3	こどもダンス教室	13	127	リズム感を養いながら音楽に合わせて体を動かし、ヒップホップダンスの基礎を学ぶ。
4	煎茶道講座	9	100	玉露、煎茶、紅茶、番茶の点前を通し、作法・所作を学ぶ。
5	スローライフ楽塾	8	148	団塊世代を含めた新たなライフスタイルを探求したい人を対象に、インドア、アウトドアを問わず様々な体験を通して学ぶ。
6	ディスカバーふつつ (新規)	4	75	「ふつつ」の良さ、すごさを再発見するための体験講座。40数kmに及ぶ海岸線を3回に分けて走破する。
7	エコ・スクール	9	152	自然環境・動植物の環境から、ゴミ・リサイクル等の学習や現地視察を行い、幅広く学ぶ。
8	こどもチャレンジ教室	4	48	家庭とは異なる環境で、親子での共同作業や体験を行い、自主性、創造性、社会性を育む。
9	シルバー生きがい学級	7	196	高齢化が進む中、レクリエーションや学習をとおし参加者がふれあえる場を作り、仲間づくりをする。
10	読み聞かせボランティア入門講座(新規)	6	60	絵本の読み聞かせボランティアを通して、読み聞かせの楽しみやボランティアの喜びを知る。
11	マナーライフ講座	3	23	難解な経済、金融の仕組みや用語の解説を受けながら、お金の流れや生活設計の仕方など新時代のマナーライフについて学ぶ。
12	和菓子教室	9	202	日本古来から伝わる和菓子作りを基礎から学ぶ。
13	季節の草木染め講座	5	75	四季の中で育った草木を使い、染め物の染料とすることを考えた先人の知恵「草木染め」を学ぶ。
14	初心者向けの3B体操	7	73	初心者を対象に健康で過ごすために、体を鍛えて病気にかかりにくくすることを学ぶ。
15	シニアのためのスマホ・タブレット講座	2	30	スマートフォンやタブレットを気軽に利用できるようにし、生活における利便性を拡大する。(シニア向け)
16	健康料理教室	5	51	季節の食材を使い、主菜・副菜・デザートなどの料理を学ぶ。
17	コーヒー講座	4	61	体に良いコーヒーの入れ方や、お菓子に合うコーヒーの選び方等、日常に使えるコーヒーの講座。
18	小筆教室	2	20	住所や名前など、生活に役立つ自分が習いたい文字を習う。
19	名画座(新規)	4	233	ホールにて視聴覚教材を用いた映写会を開催し、市民が手軽に名画を鑑賞するとともにホールの活用を図る。
20	お話し会(新規)	2	75	幼児を対象としたお話し会を開催し、親子がふれあうとともに同世代の親子が知り合う場の提供、図書室の利用促進を図る。
	合計	123	2,114	

外部評価者（Ⅰ）の評価 B

意見

少子高齢化の進展、人口の減少、特に市の厳しい財政状況から十分な予算の確保が困難な中、事業の廃止（休止）や縮小が求められ、職員の一層の創意工夫が必要不可欠となっています。そのような状況下において、事業の内容、参加者数、利用者数を見ると一定の評価ができるものと思います。社会教育委員や社会教育団体、社会教育指導員、家庭教育指導員等の斬新な意見を聞いた中での事業も必要となると思います。今後も創意工夫を怠らず、参加者や利用者のニーズを把握し、施策展開がされるよう期待します。

また、平成 27 年度から中央公民館、富津公民館、市民会館 3 館で館長が一人となり、職員の仕事量や、利用者に対する対応の負担が増している状況に危惧するところです。支障をきたさないよう創意工夫をお願いします。

青少年を取り巻く環境は大きく変化しています。携帯電話やスマートフォン、インターネットでの青少年が巻き込まれるトラブルが続発し、また、いじめや不審者の問題も今日課題となっています。このため、一層の家庭、学校、地域が一体となり健全な育成環境が整備されるよう願います。

外部評価者（Ⅱ）の評価 B

意見

生涯学習の拠点である公民館などの施設には、地域・コミュニティの拠り所として更に重要となる。修繕等維持管理費の負担は大きいですが、今後とも安心安全の管理運営にご努力願いたい。

公民館事業に求められる課題は「誰もが参加しやすい環境づくり」である。しかし、事業を担う主たる年代層の高齢化はますます進行、参加・活動に支障が予想される。特に交通手段等の問題はさらにクローズアップされると思う。全国にも見られる同様の実情、事例を参考とし、今後の改善策に活かしてほしい。

成人式は対象者数の減少が今後さらに予想される。郷土愛を高め一部の見苦しい行動をなくすためにも、各公民館単位等により身近な地域での手作りの独創的なもので実施した方がよいと思います。

3. スポーツ・レクリエーションの振興

『富津市教育施策』の施策目標と到達点

指 標 名	平成27年度	平成32年度 (目標値)	平成28年度 (到達点)
スポーツ関連の行事参加者数	15,603人	16,000人	15,813人
総合型地域スポーツクラブの数	1か所 〈平成22年度〉	2か所	1か所

ふれあいスポーツフェスタ 2016



<p>(6) 生涯学習課の取り組み スポーツ振興係</p>	<p>教育委員会の自己評価 B</p>
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会体育振興事業 (3,283,048 円) ・ふれあいスポーツフェスタ事業 (713,539 円) ・市体育施設管理運営事業 (30,467,960 円) ・スポーツレクリエーション推進事業 (302,792 円) 等 	
<p>② 28年度の取り組みの概要と効果(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会体育振興事業 <ul style="list-style-type: none"> 市民がスポーツに親しみ、健康づくり・体力づくりをする中で、豊かな生活が営まれるように各種スポーツイベント等を実施。また、スポーツ推進委員及びスポーツ・レクリエーション推進員と連携して、誰でも気軽に参加できるニュースポーツの普及に努めた。 富津市長杯争奪少年野球大会 102 人 (前年度比：-3 人) 富津市教育長杯争奪少年サッカー大会 150 人 (+10 人) 第 34 回 F T S 少年剣道大会 351 人 (-8 人) 「県民の日」記念第 33 回グラウンドゴルフ大会 98 人 (+5 人) 「県民の日」記念第 33 回バドミントン大会 272 人 (+22 人) 第 23 回 F T S 杯争奪少年柔道大会 140 人 (-22 人) 第 34 回 F T S 杯争奪少年野球大会 112 人 (-28 人) 第 22 回健康ウォークラリー大会 51 人 (+14 人) 君津地区スポーツレクリエーション祭歩け歩け大会 230 人 (H27 雨天中止) 第 35 回 F T S 杯争奪インディアカ大会 21 人 (-5 人) 第 25 回 F T S 杯争奪ソフトバレーボール大会 35 人 (-2 人) 第 22 回 F T S 杯争奪グラウンドゴルフ大会 76 人 (+15 人) 君津地区スポーツレクリエーション祭(インディアカ・ソフトバレー・グラウンドゴルフ) 63 人 (-17 人) 富津市教育長杯争奪少年野球新人大会 82 人 (-58 人) 第 5 回ふれあいドッジビー大会 113 人 (+43 人) 第 41 回ママさんバレーボール大会 114 人 (+11 人) 第 34 回市民ハイキング 60 人 (-46 人) 第 46 回元旦歩こう大会 348 人 (+24 人) 第 46 回新春バドミントン大会 265 人 (+22 人) 第 29 回新春グラウンドゴルフ大会 107 人 (+2 人) スポーツ教室(毎週土曜日) 4,746 人 (+652 人) 第 7 回富津市バスケットボールフェスタ 1,998 人 (+1,138 人 H28 から 2 日間開催) ニュースポーツ教室 20 人 (-10 人) ・ふれあいスポーツフェスタ事業 <ul style="list-style-type: none"> 市民の手づくりによる健康づくり、体力づくりを目的に多くの市民がスポーツに親しめるよう、体力測定やロコモ対策健康体操を実施。その他、スナッグゴルフやポールウォーキングの普及や富津市バスケットボールフェスタの P R を実施。また、健康づくり課等も 	

参加し骨密度・体脂肪測定も行うなど、健康を意識した大会とした。2,374人(-406人)

・市体育施設管理運営事業

公益財団法人富津市施設利用振興公社を指定管理者として管理運営を実施し、市民サービスの向上を図った。

総合社会体育館 主体育館 638件 59,519人(-87件 +266人)

小体育館 886件 9,039人(+21件 -697人)

会議室等 72件 1,082人(+43件 +547人)

富津運動広場 77件 1,575人(+11件 +424人)

新富運動広場 129件 18,826人(+14件 +2133人)

浅間山運動公園 テニス等 965件 5,223人(+74件 +143人)

野球 107件 4,121人(+23件 +748人)

・小中学校体育施設開放事業

80団体 8,065日 160,163人(延数)(+6団体 +404日 +5,367人)

・第39回千葉県民マラソン大会

市民等の心身の健全な発達とスポーツ振興、富津市の名産品などの紹介や販売を行うことによる観光振興に寄与することを目的として、千葉日報社と協力して千葉県民マラソン大会を実施。地元住民による沿道応援や市内からのボランティア参加。また、会場での各種イベントなども合わせて行うことで大会の活性化が図られた。

エントリー3,885人(-1,373人) 完走数3,278人(-970人)

③ 今後の取り組みの方向性(改善策等)

・社会体育振興事業

スポーツ推進委員やスポーツ・レクリエーション推進員と連携を図り、各種スポーツイベント等の参加者の増加を図れるよう検討する。また、身近な地域で生涯にわたってスポーツ親しめるよう総合型地域スポーツクラブの充実を図る。

・ふれあいスポーツフェスタ事業

実行委員会を早期に開催し、関係団体との協議、準備を進め内容の検討を図っていく。

・市体育施設管理運営事業

施設の老朽化に伴い各施設ともに大規模な改修等が必要となっていることから、計画的に補修を進めていく必要がある。

・千葉県民マラソン大会

大会終了後に行われている運営委員会での反省点、参加者からの意見を活かし、当初の目標であるスポーツ振興・観光振興をより充実させた大会を目指し準備・開催をする。

外部評価者（Ⅰ）の評価 B

スポーツ・レクリエーションの振興については、休日の行事や夜間の会議等が大変多い中で職員が対応している現状と思います。また、十分な予算と人員が確保できない状況の中で、各種スポーツイベントが実施されていると考えます。経験豊富なスポーツ推進員やスポーツ・レクリエーション推進員と連携し事業を進めるとともに、職員の勤務体制も考えなくてはならないと思います。

体育施設の管理運営については、指定管理者と緊密な連携を図りながら利用者の安心安全を第一に考え施設の修繕、改修の実施が必要であると考えます。

県民マラソンの開催、箱根駅伝や実業団駅伝などの練習のコースとして多くの大学や実業団の合宿が当市で行われ、各種スポーツイベントも盛んに行なわれています。2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、体育協会やスポーツ団体とスクラムを組んで、「スポーツ宣言都市」をしてはどうかと考えます。議会でも何度も出ているところですが、宣言することで市の明るいイメージに繋がると思います。

外部評価者（Ⅱ）の評価 B

意見

スポーツ等を通しての市民の健康づくりは、文化事業とともに生活の豊かさを実感できるものである。その事業振興に改善を加え努力されています。しかし、今後の方向性として高齢化・少子化という大きな要因の中で参加者数、ボランティア等の協力者、交通手段等の課題があるなかで改廃を含めた大胆な見直しをしていくべきである。一例として「総合型地域スポーツクラブ」には、様々な可能性があると思います。現在、活動している地域を参考にしたい。

28年度の「県民マラソン」のエントリー数の前年度比大幅減の要因をよく分析されたい。今日、様々な地域で「〇〇マラソン大会」のあるなかで、富津市で開催する目的・目標を更に具体化させる大会になることを期待します。